



2022年 8月15日
第31号

JR 東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実

編集情宣担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



イーハトーブ

8月15日号

今年も異常気象の夏となった。各地では、猛烈な暑さと九州、東北、北陸、東海地方と広範囲において記録的な集中豪雨があり河川の氾濫や土砂災害に見舞われた。亡くなられた方のご冥福と被害に遭われた方の早期回復をお祈り申し上げたい。

先月、「森びとプロジェクト」が行っている足尾の植樹・育樹活動に参加してきた。足尾での植樹・育樹活動は、「森びとプロジェクト」の仲間が丹精込めて育てた苗木を「りんねの森」に植え、「白沢西の森」で植樹された里親苗木周辺の草刈りをした。草刈りは、炎天下で足場の悪い急斜面の場所での作業で大変厳しかったが、現地スタッフからは「人間は暑いと云って涼しくて水のある所まで動ける。植物は、一度植えられてしまうと動けないから丁寧に作業してほしい」と言われた。作業後、大きく育つた森に入ると24度の天然クーラーの風が心地良く、心と身体を癒してくれた。新たな森を作るには、植樹して終わりではない。植樹した森には鹿や猪、猿、兎等が害獣ネットを越えて侵入し、生育中の木々を食べられる被害が多発している。「森びとプロジェクト」の仲間の献身的な植樹・育樹活動に頭が下がる思いであった。

人は、豊かな生活を求め木々を伐採し森を壊してきた。江戸時代には、森林伐採の影響で洪水被害が多発し、幕府によって治水事業と森林保全が行われたと言われている。しかし、明治以降の産業発達によって、木材は燃料や戦争用物資の目的で伐採がされ森林が破壊された。戦後の復興に向けては、土地本来の木ではない杉や檜が高価で取引されることとして植林ブームとなったが、海外木材の自由化によって日本の木材が売れなくなるとともに燃料の需要が減少したことで、木材の余剰と間伐が行われず人工の林が荒廃していくことになった。

歴史は繰り返す。国や企業の利益を求めめることで自然環境が破壊されてしまい、洪水・河川氾濫・土砂災害が多発し、山の表土が流出して岩山となる。森からの恵である豊かな水・空気が作られなければ地球上の生物の危機となり、命が脅かされていく。この異常気象を地球からの警鐘メッセージとして受け止め、「森びとプロジェクト」の活動に参加し、次の世代のために豊かな森を受け継いでいこう。(K・S)

イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちが外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという想いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行っていきます。